

*"There is a will! There is a way!"*  
「ヤル気になれば道は開ける」

「成功する人」:

- ① 「感謝の気持ち」をいつでも表現できる人
- ② 誰に対しても明るく笑顔を忘れず、気持のよい元気な挨拶ができる人
- ③ 物事を肯定的に考える（プラス思考）人 ポジティブな人
- ④ 日々の生活が、将来を見据え、明確な目的意識を持って行動できる人
- ⑤ 豊かな感性を持ち、想像・創造することが上手な人
- ⑥ 社会が評価するスキル、アイデンティティを持った人
- ⑦ 人生のステージ毎に一人でも多くの「心の友」を持つことの出来る人
- ⑧ 相手の立場に立ったコミュニケーション能力を持った人

10. 海外研修・修学旅行

ICTの進展によるボーダーレスの国際化。世界市場という中で、「文化と価値観の違い」を学生が体験し、グローバルな志向性、先進的な専門知識や技術を身に付けることが出来ます。

専門学校静岡電子情報カレッジは、ICTのメッカ・アメリカ西海岸シリコンバレーで、アップル、グーグル、インテル等をはじめとする世界有数の企業やカリフォルニア大学等を訪問し、最先端テクノロジーに見聞を広めることが出来ました。

静岡福祉医療専門学校は、ハワイで異文化や伝統に触れ、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。必ずや今後のグローバル社会の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深まり、よき思い出となるでしょう。

11. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

「なりたい自分になる」ために本学の学生としての心構えの徹底と、一人でも多くの「心の友」をつくることを目的として実施。

本学の「全人教育」と「よりよい就職をするために」の具現化に向け、本学への入学目的を確認し合い、その達成を誓い合う。この成果を、目的達成のために学校生活を送り、しっかりと形にして、「これだけのことをやったんだ」という「自信」と「誇り」につなげる！

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「心の友」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「友情を育み」大切にしてほしい。

「朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする」  
これからの君たちの日々の生活が、「感動」を求め、「充実感」、「達成感」ある生活であることを期待します。

12. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

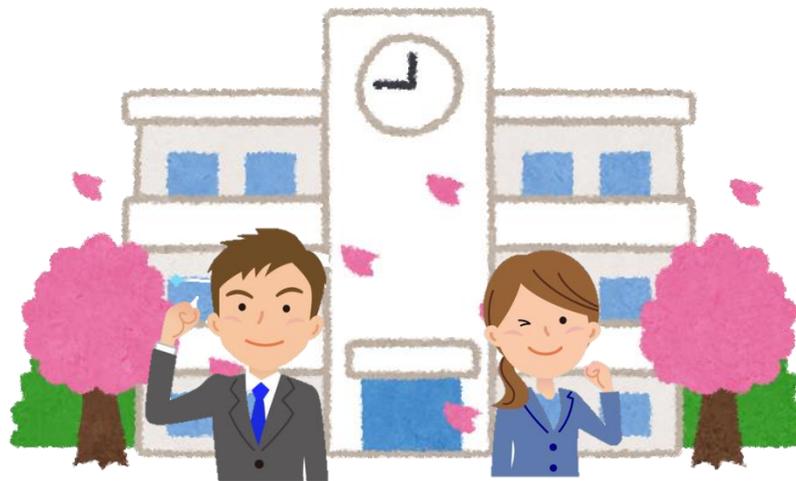
平成29年度新入生の保護者様、本学園後援会にご入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「学生に、より充実した学生生活を送ってもらう」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめ学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環境整備への補助、専門職業教育学会、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力を頂いております。

つきましては、**学校教育と家庭教育の両輪**で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

**I was born. Keep alive.** 「人は、生まれ、生かされている」、  
「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「りっぱな日本人」になっていただきたい。

以上



◆『平成29年度の指導方針について』

教頭・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を根本とし、「明るく元気のよい挨拶を基調とした全人教育」、そして「勉強と仕事を通して自己実現を図る」こと。グローバル社会を生き抜くために「日本人としての自信と誇りを持ち、確固たる



アイデンティティを確立する」。これら本学における職業教育の土台となる教育理念（昨年度創立30周年を迎えてなお不変であること）を確

（し）か）と心に据え、夫々の学校・学科・コースで目標とする職業に必要なスキル・資格を積極的に修得し、各自が目指す職場、職種への就業を果たすことが、職業教育のための高等教育機関としての本学の役割だ。



修業年限3年間または2年間という限られた時間の中で「人財」となるために、まず一日も早く職業観を養い、就職という目標を明確化しよう。そのためには本学が最も力点を置く『産学連携教育プログラム』<産業界・福祉・医療・子ども・教育等、各分野との密接な連携による実践的・体験的な職業教育>により、企業人・現場スタッフ、時には卒業生からも直接指導を受け、関わり合うことで、キャリアイメージを明確化する。更に、各自の就職目標達成に向けた学びに対するモチベーションを高める。そしてこの貴重な経験を通して見つけた課題を持ち帰り、学内での学びで解決を目指す。



「創意進取の研鑽」を重ね、試行錯誤を通じ、クリエイティブな精神を大いに培う。プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「現代社会の変化に対応」して積極的に動き、自ら課題を見つけ解決する力量、付加価値を創造する力量を伸ばすこと。校訓「技術は力なり。我は我が道を行く」ために必要なこれらの「力」を、修学期間中に一つでも多く身に付けよう。

両専門学校共に文部科学大臣から認可されている「職業実践専門課程」としての責務も果たさなくてはならない。各界のプロフェッショナルや専門分野で豊富な経験を積んだ卒業生を中心に構成する教育課程編成委員会を基軸に、我々教員も多くのチャンネルを駆使して、斯界のニーズを的確に反映したカリキュラムの構築と教育を実践するために研鑽を重ねる。



また本学ならではの「ICT（情報通信技術）×福祉医療」による  
コラボ教育、永年継続して地域から高く評価されているボラ  
ンティア活動も、一層充実させる。

専門学校での高度職業教育は「中核人材の育成」についても大きな  
期待が寄せられている。引き続き今年度も、文部科学省委託事業  
（全国の専門学校・企業・業界団体・学識経験者とのコラボレー  
ションによるカリキュラム・教材研究開発）とその普及に、本学も参  
画する。

ICT教育スタート30周年という『道標』に続く、次代への第一  
歩となる平成29年度、「キャリアイメージを常に持ち  
ながら、質を高めていけるプロフェッショナル」になる  
ための着実な教育を実践し、その成果として優秀な人材  
を世の中に輩出する一年としたい。



～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

\*「職業実践専門課程」

専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能  
力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、  
技術及び技能について組織的な教育を行うものを、「職業実践専門課程」  
として文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門  
課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするもの。  
平成26年度より新設された。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

「専門学校静岡電子情報カレッジ」分野別教育方針

教頭、電子・情報系学科長 有賀 浩

IoT（モノのインターネット）時代が急速に進み、産業・医療・  
介護・教育・農業・建設・インフラの現場から一般家庭に至るまで、  
コンピュータ、インターネット、センサーが普及。そこから得られ  
るビッグデータをAI（人工知能）で分析。その結果、新たな産業  
の振興はもちろん、幅広い分野で、人手不足の解消、過重な労働か  
らの解放、安全性・生産性の向上など、無数の事例があらゆる場  
面で見られるようになりました。このような時代において、「複数の  
サービスやシステムを融合・複合し、高い付加価値を生み出す力」  
を持った人材が求められています。

専門学校静岡電子情報カレッジでは、産学連携教育プログラムを  
基軸として、IoT時代に即応するための『専門的スキル』とコミュ  
ニケーション能力を土台とした『社会人基礎力』をダブル養成。シ  
ステム系である「ロボット創造学科」「ゲーム応用学科」、コンテ  
ツ系である「映像・音響デザイン学科」の3学科から、専門特化さ  
れたプロフェッショナルを輩出しています。

● ロボット創造学科

今、政府も産業界も「ロボットによる新たな産業革命」として打  
ち出し、国を挙げてロボット産業に取り組んでいます。物珍しかつ  
たドローンの実用化も大きく進展しています。

ロボット創造学科では、本学が開校以来培ってきた「組込み技  
術」をロボット分野に拡大。ハードウェア技術（電気・電子、デジ  
タル回路）、マイコンシステム開発（ハードウェア/ソフトウェア）、  
センサー技術、アクチュエーターと、多岐にわたる技術を、学内  
での豊富な実習に加え、産学連携教育プログラムを通じて確実に習  
得します。また、IoT時代に対応できる「ネットワーク  
技術」「セキュリティ技術」も身に付け、世の中のニー  
ズに即応できるロボット設計・開発エンジニアとしての  
活躍を目指します。



● ゲーム応用学科

本学科では「ゲーム」自体を高度なコンピュータシステムの一つ  
として捉え、その設計・開発に必要なスキルを養成します。他の  
ICTと異なり、リアルタイム性、高度な画像処理、複雑な多重処理  
など、求められる技術はたいへん高度なものです。ゲーム専用のハ  
ードウェアもちろんですが、手元にあるスマートフォンの性能を見  
ればすぐわかるでしょう。

これらを習得するためには、産業界のサポートが欠かせません。  
短期・小規模なものから実践的に開発を繰り返すことで、徐々にレ  
ベルアップを図ります。経験値も上がり、振り返った時に自らの成  
長ぶりに感激します！



こうして身に付けられたスキルにより、ゲーム業界  
はもちろんのこと、広くICT分野におけるエンジニア  
として活躍できます。

自らが目標とする業界・職種を明確にし、「就職」と  
いう夢を実現しましょう。

● 映像・音響デザイン学科

本学科はICT基本技術・社会人基礎力を土台として、映像・音響  
分野の実践に即した授業内容で最先端の技術や知識を身に付け、関  
連分野の企業や団体とタッグを組んで即戦力となる人材を育成し  
ます。この分野では、何より『創造性＝クリエイティブな精神』が  
求められます。そのためにも、創り出したコンテンツを世の中にど  
んどん公開しましょう！世間からも、プロからも評価を頂き、その  
結果を省みて、レベルアップを図る。まさにPDCAサイクルですが、  
これを在学中の一つでも多く経験しましょう。

この分野で特に求められるのはセンス。その養成にはコツがあり  
ます。日本では古来より武道や芸術の世界で師弟関係を「守破離」  
という言葉で表してきました。始めは先人達の作品に触れ、模倣す  
ることから始まります。彼らがその中にどんな思い  
でどんな技術を注ぎ込んできたか、やがて理解で  
きるでしょう。そこから独自の感性を積み上げて  
いくのです。若きクリエイターの力を結集し、明  
日の日本をデザインしよう！！



「成長のベクトル」を持った学生生活を

進路室長 橋野 幸男

「集まり散じて、人は変われど…」という文句があります。本  
学も先月、第30期生となる卒業生を送り出し、そして今、各々の  
夢を持って両校の伝統を引き継ぐ「若い力」を迎えました。

その新入生の皆さんに、学生生活で大切にしてほしい「3つのM」  
を贈ります（某シンクタンクの入社式でのメッセージを参考に、学  
生用にアレンジしました）。

一つ目のMは、「Myself」です。「専門学校選びは、『仕事』選び」  
です。皆さんそれぞれが目指す分野において、「専門性」の向上を  
図ってください。

二つ目は、「Market」、つまり「顧客志向」であれ、ということ  
です。企業・施設等が求める「人材ニーズ」を把握し、「専門性  
に加え、『豊かな人間力』をも備えた、『人財』と呼ばれる職業人」  
を目指してください。そして、更に広く、「社会」全体の動向に目を向  
け、目指す仕事の価値・社会的存在意義を考えていってください。

最後は、「Mutual Respect」です。同じ学科・同期の学生はもち  
ろん、学内外の様々な人と「お互いを尊敬し」、刺激し合い、優れた  
「チームワーク」を発揮してください。

卒業年次の皆さん、身近で「内定云々」という言葉を耳にする時  
期になりました。本学でも、電子情報の学生が3月末に、大手総合  
商社グループのIT企業（東京）から内定を頂いています。

さて、昨今の雇用状況に関し、3月中旬、次のような調査結果が  
報道されています。

・帝国データバンク調査、「正社員採用、過去10年で最高水準」：  
2017年度の正社員採用（新卒・中途入社）について、「採用予  
定がある」と回答した企業割合は64.3%。3年連続で6割を超  
え、過去10年で最高。

・日本経済新聞社、2018年春の新卒採用調査（1次集計）：2017  
年春実績（見込み）比で、＜総合計＞8.6%増。＜大卒＞9.7%  
増（うち、理工系は14.8%増）。＜短大・専門学校・高専卒＞  
17.2%増（うち、理工系は25.0%増）。＜高卒＞4.0%増。…「介  
護・陸運の伸びが顕著。理工系の増加は、人工知能（AI）や自  
動運転、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」など、急速に  
進む技術革新に対応するため」。

このように、皆さんが専攻する分野では、量的にはいわゆる「売  
手市場」という状況にあります。

しかし、楽観は禁物です。皆さんが入社したいと望む企業ほど、  
「質」重視の方針を堅持しています。また、オンライン面接の導入、  
エントリーシートの廃止など、採用方法を変更している企業もあり  
ます。志望先の採用情報を的確にキャッチしてください。

そして、「学生生活を『成長のベクトル』を持って過ごしている」  
姿を、十分にアピールしてください。